

## 体育

### ➡ 高学年 | 「サッカー型ゲーム」

# サッカーの苦手な子どもや 女子も熱中するサッカーゲーム！

## 1. 新学習指導要領から (高学年)

新学習指導要領では「攻撃側プレイヤー数が守備側プレイヤー数を上回る状態をつくり出したり守備側のプレーを制限したりすることにより、攻撃しやすく、また得点が入りやすくなるような簡易化されたゲームをする」とある。

ところが、既成のサッカーのルールに縛られ、11人対11人で一つのボールを使いサッカーをやっている学級がある。これでは、ほとんどの子どもが、シュートどころかボールにもあまり触れることができない。

## 2. コート内の人数をできるだけ少なく

まず、コート内の人数をできるだけ少なくする。3対3が理想的である。3人ならば必ずボールに触れるし、シュートも打てる。また、攻め方の基本形である三角形を作って攻めることもできる。

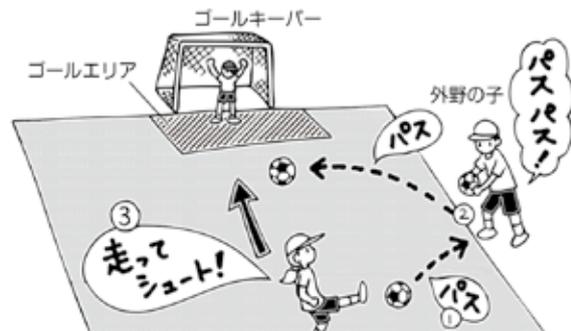
ミニゴール（ハンドボールやフットサル用のゴール）を使い、最初はゴールキーパーをなしにする。その方がシュートも入りやすく楽しい。ある程度サッカーに慣れ、シュートする楽しさも味わってから、ゴールキーパーを一人作り、4対4でゲームをする。その際、シュートした子どもがゴールキーパーをするルールにすると、多くの子どもがキーパーを体験でき、同じ子どもが続けてシュートを決めることが防げる。

## 3. 外野もゲームに参加させる

1チームの人数を6～8人にして、前半・後半に分ける。前半に出場しない子どもは外野としてゲームに参加する。ボールがコートの外に出た場合、先にボールをとった外野の子どものボールにする。す

ると、外野の子どもも、ボールと一緒に「パス！パス！」と走らようになる。内野も外野も動き回ることができ、冬の教材にはもってこいである。

ボールがコートの外に出ても、すぐに外野の子どもが投げ入れるのでゲーム展開も早い。また、外野に意図的にパスを出し、走り込みながらパスをもらいシュートするという、サッカーの攻撃の仕方も学ぶことができる。



## 4. 得点とエリアの工夫でやる気を高める

サッカーは女子が苦手とする傾向が強いので、女子のやる気を高めるため、女子がシュートしたら2点とする。また、「ゲームに参加している全員がシュートしたらボーナス3点」などというルールにすると、まだシュートしていない子どもにパスを出すなど、チーム全体のやる気が高まる。

それでも、なかなかシュートが決まらないようなら、「ゴールエリアには攻撃側しか入れない」や「ゴールエリアには女子しか入れない」などとすると、落ち着いてシュートを決めることができる。

## 5. 終わりに

サッカーの楽しさは、何と言ってもシュートを決めることである。コートやルールの工夫によって、誰もがそのチャンスをもてるのである。すると、子どもたちはサッカーに熱中し、技能も自然に高まっていく。